



和田医師若月賞を受賞

無差別・平等の医療が評価される

全国の保健医療分野で「草の根」的に活動している人の功績に対して、毎年おこなわれる若月賞の今年(第26回)の受賞者に当院外科部長の和田浄史医師が選ばれました。

若月賞は、長野県の佐久総合病院を育て、長年地域医療に取り組んできた同病院の若月俊一名誉総長の長年にわたる業績を記念して1992年に制定されました。

和田医師の受賞については、「外科医として勤務された病院の危機を支えるだけでなく同病院の終末期医療や在宅医療をも担い、更に路上生活者のいのちを守る活動に参加するなど地に足の着いた活動によって、地域の医療ニーズに応え永年にわたり幅広く人間愛に満ちた活動をされています。これはまさしく若月俊一先生の思想を体現するものであります」と、評価されました。

選考委員は井出孫六氏(作家)、行天良雄氏(医学博士・医事評論家)、樋口恵子氏(東京家政大学教授)、宮本憲一氏(大阪市立大学・滋賀大学 名誉教授)で、これまで、国保沢内病院長の増田進氏、日本赤十字看護大学名誉教授の川嶋みどり氏、ペシャワール会の中村哲氏、水俣病研究の原田正純氏、NPO法人「もやい」の湯浅誠氏などが受賞しています。

7月21日にJA長野厚生連などの主催による第57回農村医学夏季大学講座が佐久市で開催され、若月賞授賞式ならびに和田医師による受賞講演「無差別・平等の医療をめざして」がおこなわれました。

講演で和田医師は、川崎協同病院事件後に多くの職員が退職し、外科医師が自分一人になりながらも、病院スタッフや地域住民、全国からの支援に支えられながら、地域の健康を守り続けてきた体験を語りました。

また、医師だけではなく他職種との連携や、時には行政にも働きかけサポートを受けることで患者さんのニーズに応えていき、問題の解決に対しては、医師や看護師といった専門職だけではなく、患者さんやその家族も一緒になってとりくむ姿勢が大切であることなどを話しました。

受賞に際し和田医師は「ずっと若月先生に憧れてきたので、ノーベル賞よりもうれしく思います。今回の受賞は、20年近くにわたってぼくを支えてくれた、医師を始めとするさまざまなスタッフや地域の人のびとに対して頂いたのだと思います」と喜びを語っていました。



和田医師



賞状を受け取る和田医師

こそだてママカレッジ開講

～あたまとからだをつかって楽しく学ぼう～

あくしょん

7月8日、ライフコミュニケーション川崎（川崎区藤崎）の多目的ホールで、「こそだてママカレッジ」が開講しました。「あそび×まなび→カワサキげんきプロジェクト（注）」の第一弾企画であるこの「カレッジ」は、出産や育児に関心のあるお母さんを対象にし、子育てをテーマに産科・小児科の医師や看護師、セラピストなどの医療スタッフが講義をする全3回のセミナーです。

初回のプログラムは、出産についての話や、鍼灸師の資



産後骨盤エクササイズをする参加者

格のある助産師による「妊活のツボ」の指導、妊婦体験といったバラエティーに富んだ内容で、参加者からも、「おなかが大きくなって外に出る機会が減っていたので、地域イベントに参加でき気分転換になった」、「体験できてよかった」と、とても好評でした。

8月19日に行われた2回目は、「レンジでチンはだめですか？」といった離乳食の作り方や産後の骨盤矯正に関するプログラムとして「自分でできる産後骨盤エクササイズ～ガスケアアプローチ式～」についての講義でした。「こどもの食育のスタンスが学べた」、「エクササイズがよかった」と、この時も好評でした。

3回目は、9月9日に開催を予定しています。子育てについて「ネットでは分からない発達やアレルギーのアレコレ」、「こどもにとっての遊びって？～発達段階に適した遊びとは～」といったみなさんの関心呼びそなプログラムを予定しています。ぜひご参加ください。

（注）「あそび×まなび→カワサキげんきプロジェクト」とは、川崎協同病院と総合川崎臨港病院による、関係機関で連携し、住み慣れた地域で暮らしやすい街づくりを目指すプロジェクトです。

川崎協同病院 地域連携室 高橋 靖明

STAFF「もうひとつの顔」

仲間とキャンプでリフレッシュ

川崎協同病院 リハビリテーション科 長井 翔太

入社して2年目、理学療法士をしています。みなさんは休日をどのように過ごされていますか？家でゴロゴロするのも楽しいですが、最近、私はキャンプにはまっています。1、2時間車を走らせ、森や川へと出かけて行きます。



大自然に囲まれリフレッシュ

キャンプ場に着いたら、まずはテントを設営しバーベキューの準備などを行います。キャンプの魅力は、みんなで協力して自分たちだけの空間を作り、一緒においしい料理を食べたり焚き火を囲んで笑いあったり



爽やかな笑顔で患者さんに安心感を与える

することだと思えます。

つい先日モリハビリテーション科の先輩たちとキャンプに行きました。新調したランタンになかなか火がつかないというハプニングもありましたが、どうにかつけることができ、みんなで大喜びしました。

こんな非日常的な体験ができるのもキャンプならではの良さだと思います。近頃はさまざまなキャンプ道具が販売されています。用途に合わせて使い分けたり新しい道具を少しずつ買い揃えていくのも楽しみの一つです。

大自然のきれいな空気や太陽の光を全身に浴びて、仲間と笑い合うことで身も心もリフレッシュでき、日々の診療に取り組むことができます。

私が担当します！

入退院の状況を把握し、スムーズな入院を

昨年6月から看護師長として地域連携室で勤務しています。川崎協同病院では、昨年10月から地域包括ケア病棟が開設され、法人内の診療所をはじめ、法人外からの紹介患者さんも増えてきています。

地域連携室では、地域に求められる病院として入院から退院まで安全な医療・看護の提供ができるよう病棟看護師や他職種と連携しながら日々奮闘しています。

私は、地域連携室の看護師として、主に入院相談や転院相談を行っています。地域包括ケア病棟ができるまでは、事務と協力しながら入院相談を受けてきましたが、昨年10月からは地域連携室の看護師がその役割を担っています。

スムーズに入院の受け入れをするために、院内の入退院の状況を把握しながら毎日ベッド調整に悪戦苦闘をし

地域連携室 看護師長
川口 洋子



略歴：

1995年川崎協同病院入職。訪問看護ステーション、在宅訪問診療を経験して1999年にケアマネージャー資格を取得。2000年から7年間京町診療所で看護師とケアマネージャーを兼務。2007年6月川崎協同病院に移動、師長として血液浄化センターを5年、病棟を2年経験し、地域連携室勤務。

ています。しかし、病棟勤務の時とは違った目線で患者さんと関わることができたり、他職種とのコミュニケーションも増えて毎日が新しい発見の連続で、楽しく仕事をしています。

今後は退院支援にも力を入れ、さらに地域のニーズに応えられるように努めたいと思っています。「顔の見える連携」を心がけ、地域で選ばれる病院を目指します。介護や医療などでお困りのことがあれば、まず地域連携室に御相談下さい。

トピックス TOPICS

無料定額診療事業で安心の医療を 高まる一般の関心 川崎協同病院は2010年から開始



川崎協同病院が「無料低額診療事業」を開始してから今年で7年目をむかえました。先日、無料低額診療事業がNHKの番組でも取り上げられたことで、一般の関心も高まったようです。当院でも無料定額診療事業を行っていることをホームページに掲載していますが、これを見た人からの相談が増えてきています。

「無料低額診療事業」とは、低所得者など生活が困難な人が、経済的な理由によって必要な医療を受けられる機会が制限されることのないよう、無料または低額な料金で医療を利用できる制度で、社会福祉法にもとづいた事業です。

◆たとえばこんな場合、こんな人が制度を利用できます。

- ◇保険証がない。
- ◇「短期保険証」「資格証明書」が発行されて困っている。
- ◇リストラ、失業などで収入がなく医療費が払えない。
- ◇病気や障害などで収入がなく医療費が払えない。
- ◇病気や障害などで就労が厳しく、生活費だけで手いっぱい。

◆当院での利用を希望する場合は？

電話または来院の上、総合受付で相談ください。まず、ソーシャルワーカーが利用希望者の面談を行い、基準に基づいて経済状況を把握し、公的制度や社会資源の活用の可能性を検討しつつ、当院内の会議で利用の可否を判定します。

また、この制度は、生活が改善するまでの一時的な措置なので、このほか公的な制度や社会資源を活用し、生活改善の方向をさぐることで、一緒に生活の立て直しを考えていきます。

無料・低額になるのは、当院での保険のきく医療費の支払い分です。薬局での支払いや、健康診断・診断書など保険のきかない部分は対象となりません。

☆無料・低額診療事業は、協同ふじさきクリニック、介護老人保健施設・樹の丘、生協歯科クリニックでも行っています。

問い合わせ先：協同病院地域連携室 相談課
044-299-4781

川崎協同病院 地域連携室 高橋 靖明



「新ゆりの家庭医」 川崎医療生協、最北の事業所

あさお診療所

昨年、開設 20 周年を迎えた「あさお診療所」（川崎市麻生区）は、小田急線新百合ヶ丘駅南口から徒歩 5 分の閑静な住宅街にあります。川崎医療生活協同組合の中では最北に位置する事業所です。

スタッフは、所長の清田実穂医師をはじめ、常勤医が勝又聡彦医師、竹内美音子医師の 3 人。看護師は三井恵美師長をはじめ 4 人。このほか岡塚也事務長以下 4 人の事務スタッフがいます。合計で 11 人です。

通常の外来診療のほか、60 件の訪問診療を行っていますが、60 件のうち 45 件は、同法人診療所と連携して 24 時間の緊急対応をしています。外来診療では昨年 4 月から「もの忘れ外来」がはじまりました。

川崎医療生活協同組合は、川崎協同病院がセンター病院として、各診療所で入院が必要となった患者さんを診ています。しかし、川崎協同病院は川崎市のなかでも最南部に位置しているため、最北部のあさお診療所から入院の患者さんを紹介することはほとんどありません。

そのため、入院や精密検査が必要な患者さんは、近隣の病院へ紹介するなどして独自に地域連携をすすめています。また、地域の診療所として、近隣介護施設や訪問看護ステーション、ケアマネジャー、行政などとの連携も大切にしています。

また、「地域連携学習会」を定期的で開催するなど地域包括ケアの実践に取り組むほか、地域の診療所として以下のような取り組みをしています。



あさお診療所のスタッフと子どもたち

【ゆりカフェ】

認知症本人やその家族、各専門家や地域住民が、お互いに交流をしたり、情報交換をしたりすることを目的に集う認知症カフェとして「ゆりカフェ」を 6 月から診療所内で定期開催しています。

初回は認知症について、川崎協同病院の菅野認知症認定看護師が講演し、50 人をを超える参加者で大成功。7 月 7 日も七夕飾りや歌で盛り上がりました。

【あさおキッズ診療所】

子どもたちを対象に、医療に興味をもってもらうようと、毎年夏休みに開催しているのが「キッズ診療所」です。夏休みの自由研究のヒントになることもあり、地域の子どもたちに大人気です。

今年のテーマは「ねっちゅうしょう」で、8 月 1 日に開催、16 人が参加しました。家庭医の竹内美音子医師が熱中症の話をし、子どもたちは 3 グループに分かれて、経口補水液づくり、手洗い練習、医師として模擬患者の診察を行いました。

【レディース健診】

「婦人科検診も同日に受けてたい」「子どもが預けられないので健診が受けられない」という女性のニーズに応え、女性医師 2 人がいることを生かし、毎年女性スタッフだけで、「レディース健診」と称して、女性専門の検診を行っています。

あさお診療所：川崎市麻生区上麻生 2 丁目 1-10
電話 044-951-3940

